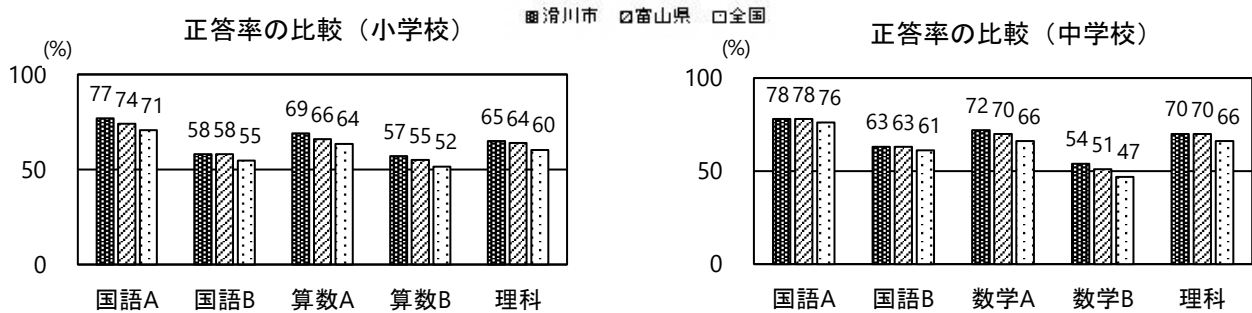


滑川市の児童生徒の学力について

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果、分析より

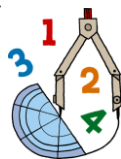
本年 4 月 17 日に全国の小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。この調査は、児童生徒の学力や 学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として平成 19 年から行われているものです。滑川市教育委員会では、今年度の結果を分析し、各小中学校と連携し滑川市の児童生徒の学力や生活習慣の特徴と改善策について検討しました。

結果から分かる子供たちの学力のようす



小学校

- すべての教科において、全国と比べ高い正答率になっています。また、無回答率も大変低い状況でした。落ち着いた学習環境の中、児童同士の学び合いの学習や少人数学習等で、児童は着実に学力を付けていると考えます。
- 国語 A、B の「書くこと」において、全国よりも 4 ポイント高い結果になりました。日ごろから、書く活動（特に自分の考えや、考え方）を重視した取組の成果と考えます。
- 算数 A、B では、すべての領域において全国の結果を 4 ～ 8 ポイント上回りました。本市では、授業に ICT 機器を積極的に活用し、分かりやすい授業づくりに努めています。空間的な位置や分かりにくい問題を図や表として可視化でき、児童の理解力や考える力を高めることにつながっていると考えます。
- 3 年ぶりに行われた理科は、「知識」「活用」に関する問題ともに全国平均を 5 ポイント以上、上回りました。教材備品の充実や教員の研修、科学の時間の取組等で、児童の理科の興味・関心や理解力が高まったと考えます。
- 教科領域別正答率で県平均よりも低かったものは、国語 B の「話すこと・聞くこと」でした。話し手の意図を捉え、自分の考えと比較しながら聞くことに課題が見られます。相手の意見を聞いて考えたことや、共感したり納得したりした内容も取り入れ、自分の考えをまとめる活動を増やしていくことで「話すこと・聞くこと」の力の育成につながると考えます。



中学校

- すべての教科において、全国と比べ高い平均正答率になっています。これは、「課題の提示」や「学習内容の工夫」「振り返りの時間の確保」「学び合いのある授業」などの授業改善を通して、生徒の思考力が育まれた成果と考えます。
- 国語 A、B の「読むこと」にやや課題が見られました。「文章と図表等との関連を考えながら、説明や記録の文章を読む」「登場人物の描写や言動の意味等を考え読む」ように努めることで、より深く物事をとらえる力が育まれると考えます。
- 数学 A、B は、ともに全国・県の平均正答率を上回っており、領域別に見ても 3 ～ 9 ポイントの差がありました。確実に数学的な力が育っています。学び合いの授業、少人数の授業を実施することで、生徒が主体的に学習に取り組み、一人一人の理解を高めることにつながったと考えます。質問紙の「数学の授業の内容がよく分かる」と答える生徒が県・全国よりも 6 ポイントほど高くなっていました。
- 理科については、領域別に見ると概ね全国平均より高い正答率でした。県平均と比較すると化学的・地学的領域の「知識」に関する問題に、わずかな落ち込みがありました。基本的な問題に何度も取り組んだり、観察・実験の際には、器具の操作を繰り返したりすることが、知識や技能を確実に身に付けることにつながると考えます。

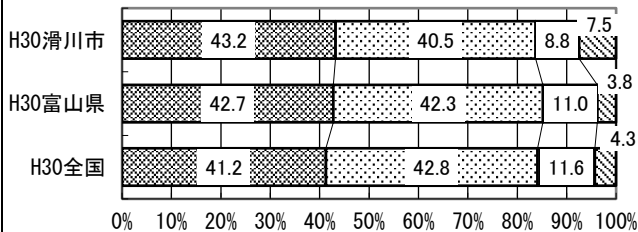


質問紙から分かる子供たちの生活のようす

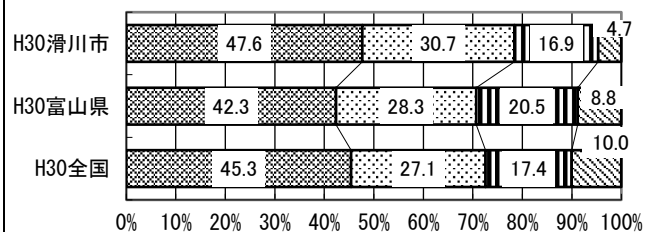
小学校

中学校

自分には、よいところがあると思いますか



将来の夢や目標をもっていますか



■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

「自分には、よいところがある」と感じている小学生が80%以上となりました。これは、学校や家庭、地域等の子供たちに関わる大人が、積極的によいところを認めたり褒めたりする場面が多かったからではないかと推察されます。自己肯定感、子供たちの様々な気につながる大切なものだと考えます。

「家で学校の授業の予習・復習をしている」と答えた児童は、県平均より7ポイント低く、家庭学習の習慣付けや自主学習ノートを効果的に使った家庭学習を学校と家庭が協力して進めることが大切です。

「家の人と学校での出来事について話をする」と答えた児童は、全国・県平均よりもわずかながら低い結果でした。学校の話だけでなく、子供との会話の機会を増やすことは、子供たちの穏やかな心や安心できる環境をつくることにつながります。

「自分で計画を立てて勉強している」、「家で学校の授業の予習・復習をしている」と答えた生徒は、全国・県平均よりも高く、家庭学習の習慣が定着していることや自立の力が育ってきていることが分かりました。学習時間を比べると、2時間以上学習していると答えた生徒は、全国平均では36%だったのに対し、本市の中学生は10ポイント低い結果でした。家庭での時間の使い方を見直すことが必要です。



今後の取組について

今回の調査結果を踏まえて、今後以下のことについて、新たにまたは継続して取り組むことにより、児童生徒の更なる学力の向上や充実した学校生活をサポートします。小・中学校と、家庭や地域がともにスクラムを組み、それぞれの役割を果たしていくことが大切です。

学校、教育委員会

- ・児童生徒同士の「学び合い」が活発に展開されるように、「聞く、話す、書く」ことに重点を置いた指導を行います。
- ・目的に応じて表やグラフを選択し、情報を読み取り、活用する力を養うことで、自分の考えを論理的に説明する場を設定できるように授業を工夫していきます。
- ・授業改善や学級づくり等の教員研修を充実させます。
- ・一人一人の児童生徒のよさを見付け、褒める機会を更に増やします。
- ・基礎的・基本的な知識や技能の更なる定着を目指し、家庭学習の課題を見直し、家庭と連携していきます。
- ・メディアの利用の仕方或使用時間の指導を継続して行います。



家庭

- ・学校と連携した家庭学習の充実に協力しましょう。
- ・規則正しい生活習慣を定着させましょう。
- ・メディア利用についての約束や指導をしましょう。
- ・家庭での手伝いや役割分担等で自己有用感や自己肯定感を高めるようにしましょう。

滑川市の児童生徒の学力の向上

地域

- ・地域のたくさんの大人の目で、子供たちを見守っていきましょう。
- ・地域行事では子供たちの活躍の場を多く作りましょう。
- ・学校の教育活動に更なる連携と協力（出前授業の講師や学校行事への協力等）をお願いします。

